

二〇一四年一月三日

人波を背にしてひらく初神籤
御手洗の杓真新し初詣
ユーモアなご法話にまず初笑
オリンピックまでは生きねば屠蘇を酌む

なつき
ともえ
満天
あさこ

二〇一四年一月二日

神杉の辺りを払ふ淑気かな
神籤読み首すくめたる晴着の娘
福袋買ふべく列のしんがりに
碧落に鳶を放ちて初御空

宏虎
なつき
三刀
うつぎ

二〇一四年一月一日

雲切れて海に日矢さす淑気かな
金色の褪せて枯野の昏れなんと
金の千木魁として初明り

せいじ
せいじ
せいじ
菜々

二〇一三年十二月三十一日

残照の砂州に水鳥身じろがず
賜りし長寿に感謝初御空
注連飾る踏み台嫁に支へられ
本を持つ両手冷たき寢床かな

さつき
宏虎
あさこ
さつき

二〇一三年二月三〇日

どの墓も供華新しく年明くる
括られしまま傾きて菊枯れる

はく子
さつき

二〇一三年二月二十九日

煤逃げのカラオケ大会な咎めそ
杓をもて割る蹲踞の初氷
老犬に傘さし向ける時雨かな
煤逃げの誘ひの電話断らず

こすもす
あさこ
さつき
なつき

二〇一三年二月二十八日

終ひ湯に敷の手を癒やしけり
北国へつづく雪嶺晴れ上がる
風花は舞ひ炭窯は煙吐く

満天
せいじ
雅流

毎日句会みのる選・二〇一四年一月五日